

日本エコレザーの6つの条件

- 1 天然皮革である
- 2 発がん性染料を使用していない
- 3 有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- 4 臭気が基準値以下
- 5 適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- 6 染色摩擦堅ろう度が基準値以上

※染色堅ろう度とは、染色された色が摩擦や使用条件にどれだけ耐えるかの指標



くろざんがわ
日本エコレザー認定の黒棧革を、
世界のデザイナーに向けて発信していく

出席者
坂本弘氏(坂本商店代表)

杉田正見氏(NPO法人日本皮革技術協会 理事長)
稲次俊敬氏(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

黒棧革は武具関連で発展、
海外の展示会にも出展

杉田 本日は、黒棧革(くろざんがわ)を世界に向けて発信している姫路のタンナー、坂本商店の坂本弘代表にご登壇いただきました。

黒棧革はこれまで剣道の竹刀の付属部品や胴胸の装飾に使われてきましたが、最近ではカバンや革小物のほか、クリエイターやデザイナーのコレクションにも使われるようになっていきます。まず、黒棧革からご説明ください。

坂本 黒棧革とは黒毛和牛の原皮を使い、最近ではタンニンなめしを取り入れ、鉄を浸透させて作ります。さらに漆塗りの技術を融合させて完成させる

革です。革のシボに手作業で漆を施しているため、ダイヤの粒を無数散りばめたように、黒く美しい輝きを見せてくれる革になります。

この黒棧革を一貫生産していますが、世界に発信できる革ブランドにしようということで、地元である「姫路」を頭に付け「姫路黒棧(ひめじくろざん)」として商標登録しました。世界市場で評価されるよう、その価値を高めていきたいと考えています。

杉田 黒棧革をこれまでの武具用の革から、ファッション素材として目を向けるようになったきっかけは？

坂本 10年ほど前に中国のタンナー工場を視察しましたが、生産力では勝

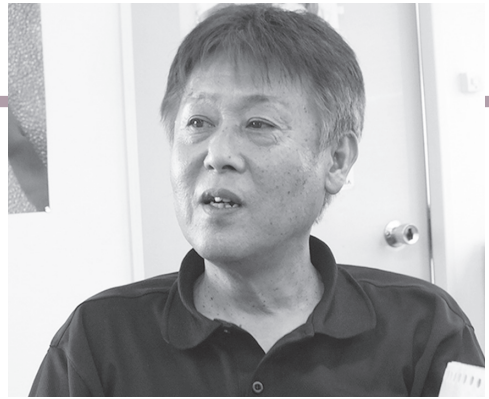


姫路市の坂本商店の事務所にて

ち目がないと感じました。武具関連の革を扱う卸は、姫路には3〜4社ほどありましたが、そのいずれもが中国からの輸入品を扱うようになっていました。

剣道は国技であっても、用具は日本製ではなくなっています。唯一、錬士、範士が試合の前に行う演武で使う胴胸が日本製のオーダー品で、黒棧革を使った防具は、一般の店舗にはほとんど置かれていないのが現状です。

日本製が生き残っていくためには、輸送コストが掛からないことでメリットが出せるものか、他社がやらないような特殊なものを生産するしかないと思います。そんな中で、日本皮革産業連合会や兵庫県のパックアップを受けて、海外の見本市に出て行くように



坂本 弘氏



「姫路黒棧」を使った靴、バッグ



坂本商店の「姫路黒棧姫路」

なりました。

海外に発信していく革は 環境が大きなテーマになる

稲次 2014年の香港APLF皮革素材製造技術展への出展では、日本人初のベストニューレザ部門グランプリを受賞されています。この反響はいかがでしたか？

坂本 日本の伝統的な革である黒棧革を、世界に向けて発信したいという思いは常にありました。同時にそうした革は、環境を考えたものであるべきだとも考えていました。

ホルムアルデヒドの規制が厳しくなつてからは、黒棧革の製革にはタンニンなめしの革をベースに使うようになっています。子供剣士たちが使う革は、最も安全・安心であるべきで、環境に優しい革に目を向けることになりました。

特に、香港APLFでグランプリを受賞したときに、この考えを強くしま



2014年の香港APLFのベストニューレザ部門グランプリのトロフィー

した。革の技術部門で賞をもらった革のベースに、発がん性物質を使っているはずかしいです。

安全な革であることを証明するため、エコテックススタンダード100の認証を取得しましたが、48項目の規制項目をすべてクリアするまで4年間かかりました。この認証の有効期限は1年間で、その後5年ほどは毎年更新しましたが、経済的な負担が大きかったのも事実です。そんなときに日本エコレザの認定制度がスタートしたため、そちらを受けることにしました。

杉田 以剣道用具に向けた革とファッション用途の革では、同じ黒棧革でも色や雰囲気が変わってくると思います。その点はいかがでしょう。

坂本 ファッション関連で使われる革では、常に新しいものが求められます。黒棧革の生産では、ベースの革は漆との相性のいいものを作らねばなりません。クロムなめしのように強い結合で物性も安定したものが得られにくく、100枚まとめて鞣(なめ)しても、個体差が出て来るため、製革には大変神経を使います。

漆塗りにおいても、仏具や椀のように植物起原の木に塗るのは違っています。

ます。動物起原の革に漆を塗るのは黒棧革と印伝革だけで、革との反応で漆の色も変わってきます。

杉田 黒棧革と印伝革は、同じように革に漆を使いますが、製法上ではどのように違いますか？

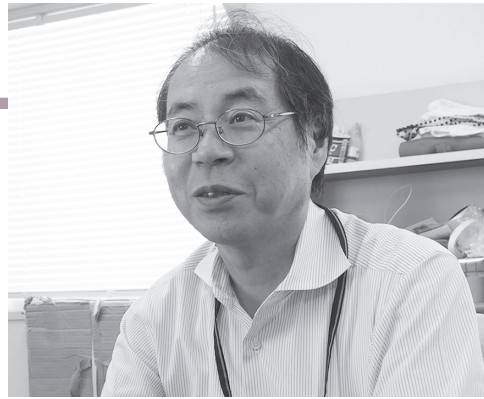
坂本 印伝革は傷の多い鹿革を使うため、銀面を除去し、その上に小椀やトンボなどの模様の入った型紙を載せ、漆で型染めをします。このあと室(むろ)に入れて漆を固めることで完成します。

一方、黒棧革は牛革を使います。アニリン仕上げした牛革の銀面を残したまま、銀面の突起部分に漆をつけていきます。ここでは手揉み(てもみ)という、シボの部分に手作業で漆を載せていく手法もあります。最初は銀面の下に根がかりのような状態でくっつくように吸い込まれます。その上に薄い漆を何回も繰り返し塗り、ツヤを出していきます。

塗りの作業時間に加え、ツヤを出すために一定の温度と湿度を保ちながらゆつくりと乾燥させます。このため、完成までにはさらに時間がかかります。また、シボの大きさは個体や部位によつて違つたため、手揉みのものは標準品



杉田正見氏



稲次俊敬氏

がなく、革の表情は1枚1枚違っているのが特徴です。

エコレザーの黒棧革は稀少で市場性が高い

稲次 ファッション用途では、クリエイターやデザイナーのコレクションでコラボも多いようですが？

坂本 パリ・コレに参加している「RYNSHU」のコレクションに素材を提供している関係から、パリ・コレに招待されました。その際、有名ブランド企業を訪問して、日本エコレザー認定の黒棧革をエントリーさせていただきました。

こういった世界的なブランドを展開する企業は、環境問題に力を入れており、環境に優しいことを前提にもづくりをしています。後になって状況を分析してみたところ、環境に負荷のあるようなものでは信頼されないことが分かりました。

香港APLFでグランプリを受賞した革も、外観からは分からなくても、日本エコレザーとして認定された革であるということで、胸を張って賞をいただくことができました。

グランプリを受賞した後からは、国内の業者からの問い合わせが増えています。海外での評価が日本に逆輸入されたようです。

杉田 海外へのエントリーに際しては、試験結果と認定書が必要かと思えます。今は日本語のものを提出されているようですが、認定書を出す日本皮革産業連合会では、英語版を作ってもいいかと思えます。

坂本 パリのプルミエールヴィジョンに出展したときは、70社がブースに会場されましたが、そのうち65社は有力なブランドを展開している会社でした。わざわざお呼びしなくても来てくれました。また、一流ブランドにとって差別化の手段として環境が大きなテーマになっているのを感じました。

今年の9月の出展に際して、「姫路黒棧」をアワードにエントリーしましたところ、メゾンのトップデザイナーによる審査の結果、「HANDEL PRIZE」を受賞



今年9月のプルミエールヴィジョンでは「HANDEL PRIZE」を受賞

RIZE」を受賞しました。2014年の香港APLFでのグランプリ受賞に続く栄誉となりました。

今年も、新たな会社と会うことができるようになっていきます。パンフレットは仏語、英語、中国語のものも用意して渡します。

杉田 稀少性の高い黒棧革ですが、これからのマーケットでの可能性はどう見えますか？

坂本 海外の見本市に出展して感じたことは、一般的なクロム革のように数量で対応できない黒棧革でも、マーケットはあるということです。

ある有名企業からは、世界のリーダーが公務で使うペンや書類カバーなどに使いたいというオファーがありました。先方も黒棧革に対して量は求めず、稀少性を評価していただいております。1万5000ユーロで販売できる製品を作りたい、というようなことを話されてきました。

世界のトップが、こんな商品を使っていることがニュースで紹介され、それを見た富裕層が同じものを求めるようになれば、今後に期待ができるのではないのでしょうか。